



福祉教育プログラム



令和2年度版



美濃加茂市社会福祉協議会

ともに生きる力
～社協は学校とともに、子どもの学びや育ちを支える
「福祉教育」を推進しています！～

学校と地域のつなぎ役として～福祉教育における社協の機能・強み～

“社協の一番の『強み』は、地域のさまざまな人材や社会資源とつながりをもっていること”

社協は地域福祉をすすめていく組織です。そのために福祉教育を大切にし、学校を含めた地域の様々な場面で進められる福祉教育を推進・支援しています。学校ですすめられる福祉教育に対しては、プログラムの企画段階からの相談、地域の社会資源や人材をつなぐコーディネートを担当しており、地域のさまざまな資源を駆使したプログラムを提案することができます。

“子どもたちの「学びたい、活動したい」という気持ちを、具体的な活動につなげます”

学校の授業や行事の範囲ではおさまらない、子どもたちの「もっと学びたい、もっと活動したい」という気持ちを受け止める地域の受け皿を用意することも強みです。社協にはそのような子どもたちの気持ちを具体的な活動につなげていく応援ができます。子どもたちの「ともに生きる力」をはぐくむためには、学校・家庭・地域が連携しつつ、地域全体で取り組むことが不可欠ですが、社協は地域のつなぎ役を担うことが出来ます。

福祉教育を通してはぐくまれる力

地域の人、福祉の当事者との出会いや関わりを通して、自分と違う立場の人と認め合い、人の気持ちに共感できる力や自分の考えを表現する力、考えを共有し実行につなげていく力等の「ともに生きる力」をつけていきます。さらに子どもたちが地域の中で交流や活動をすることで地域の人から感謝されたり、大切に思われていることを実感でき、自己肯定感や自己有用感を積み重ねていくことができます。

社協が1970年代からすすめている福祉教育の取り組みは、まさしくこの「生きる力」に通ずるものであり、そのためのノウハウと人や社会資源のコーディネート力を持っています。子どもたちの学びを地域と作っていくために、ぜひ社協をご活用ください。

全国社会福祉法人 全国社会福祉協議会「ともに生きる力」より抜粋

美濃加茂市社会福祉協議会が提供できる福祉教育

1. 貸し出し可能備品（事前予約必要）

- ・ユニバーサルデザイン商品
- ・車いす
- ・アイマスク・白杖
- ・点字器
- ・高齢者疑似体験セット（大人用5セット 児童用5セット）
- ・フライングディスク 1セット（障がい者スポーツ）
- ・ボッチャボール 2セット（障がい者スポーツ）
- ・ゴールボール 2個（障がい者スポーツ）
- ・ペガーボール 1セット（障がい者スポーツ）



2. 社協職員による出前講座 ～さまざまな授業との関連を考慮して～

① 福祉ってなに？ ～バリアフリーとユニバーサルデザイン～

子どもたちの学年に合わせて、わかりやすく、福祉について学び、ふくしのこころを養うことを目的とします。

町の中にあるバリアフリー・ユニバーサルデザインを学び、皆が住みやすい社会とはどのようなものかについて考えます。

関連可能な単元	小学6年社会⑤ P40～41 ③わたしたちのくらしと日本国憲法 「だれもが楽しめる公園」 中学1年道徳 P46～53 シーズン2 仲間とよりよい生活をおくるために 8. 思いやり・感謝「席を譲ったけれど」 COLUMN 共生 持続可能な社会のために「ユニバーサルデザインー誰もが使いやすいものをー」 中学社会 公民 P44～55 「基本的人権と個人の尊重」 「平等権ー共生社会を目指して」 「社会権ー豊かに生きる権利」 P150～153 「社会保障の仕組み」 「少子高齢化と財政」	高校倫理（実教出版） P203 第2章 第4節 地域社会の課題 高校現代社会（東書） P146～148 第4章 現代の経済と国民福祉 ④社会保障の役割 高校現代社会（第一学習社） P144～147 第5章 現代の経済社会とわたしたちの生活 ⑩社会保障と福祉社会 ⑪これからの社会保障
---------	---	--

② ボランティアをよく知ろう！

ボランティア活動の「いろは」について学び、子どもたちが実際にできるボランティア活動について紹介します。

関連可能な単元	小学5年国語 P104～109 「明日をつくるわたしたち」 小学5年道徳 P148～157 (33) 明日へ向かって (34) ちひろの想い 小学6年社会⑤ P26～27 2. わたしたちの生活と政治 ①震災復興の願いを実現する政治 「さまざまな支援と絆」 中学社会 地理 P152～155 「自然災害と防災への取り組み」	中学社会 公民 P12～15 「持続可能な社会に向けて」 中学1年道徳 P104～111 シーズン3 広い視野で 18. 社会参画、公共の精神「僕たちの未来」 COLUMN 社会参画「誰のため？何のため？」 中学2年道徳 P192～197 シーズン4 よりよい社会を目指して 33. 社会参画、公共の精神「紙芝居」 高校倫理（実教出版） P178～181 第1章 第6節 社会参加と幸福
---------	---	---

③ ふくしの仕事を知ろう！

福祉の専門職についている人から直接お話を聞き、福祉分野のしごとについて学びます。

関連可能な単元	小学5年社会㊦ P38～39 ④情報化した社会とわたしたちの生活 ひろげる『社会を変える情報－福祉と情報化』 小学6年社会㊦ P17 2. わたしたちの生活と政治 ①子育て支援の願いを実現する政治 ひろげる『川口市の福祉事業』
---------	---

④ 総合福祉会館見学

高齢者等が利用している総合福祉会館を見学します。

関連可能な単元	小学6年社会㊦ P17 2. わたしたちの生活と政治 ①子育て支援の願いを実現する政治 ひろげる『川口市の福祉事業』
---------	---

⑤ 障がい理解

障がいについて、「大変そう」「かわいそう」で理解を留めずに、障がいのある人を、個人として尊重するための正しい理解をサポートします。

関連可能な単元	小学4年道徳 P88～91 ⑩せきが空いているのに 中学1年道徳 P42～45 シーズン2 仲間とよりよい生活をおくるために 7. 相互理解・寛容「私の話を聞いてね」 中学2年道徳 P62～66 シーズン2 社会の一員として 10. 思いやり、感謝「松葉づえ」
---------	---

⑥ 障がいのある方との交流

障がい者支援施設「ひまわりの家」との交流会を通して、当事者と実際に関わりながら、同じ目線で物事を楽しむことができること、コミュニケーションの取り方を学びます。

関連可能な単元	小学4年道徳 P88～91 ⑩せきが空いているのに 中学1年道徳 P42～45 シーズン2 仲間とよりよい生活をおくるために 7. 相互理解・寛容「私の話を聞いてね」 中学2年道徳 P62～66 シーズン2 社会の一員として 10. 思いやり、感謝「松葉づえ」
---------	---

⑦ 障がい者スポーツ体験 ～ボッチャボール・ゴールボール～	
フライングディスクやボッチャボール、ゴールボールなどを使用し、障がい者スポーツの体験をします。また、パラリンピックについても触れ、障がい者スポーツへの関心を促します。	
関連可能な単元	小学4年道徳 P122～123 「パラリンピックの競技」 中学2年道徳 P84～91 シーズン3 広い視野で 1 4. 希望と勇気、強い意志「夢を求めてパラリンピック」 COLUMN 共生 持続可能な社会のために「アダプテッドスポーツって何だろう」

⑧ 高齢者とのコミュニケーション・高齢者理解	
寸劇やワークを通して、高齢者の身体面だけでなく、精神面の変化を学び、高齢者への接し方を学びます。	
関連可能な単元	小学5年社会⑤ P38～39 ④情報化した社会とわたしたちの生活 ひろげる『社会を変える情報－福祉と情報化』 中学社会 公民 P12～15 「少子高齢化－変わる人口構成と家族」 高校倫理（実教出版） P200～202 第2章 第3節 家族の課題

⑨ 生活支援コーディネーターってなあに？ ～地域のためにできること～	
生活支援とは何かを理解し、地域の中で学生の自分たちができることは何かを考えます。	
関連可能な単元	中学1年道徳 P104～111 シーズン3 広い視野で 1 8. 社会参画、公共の精神「僕たちの未来」 COLUMN 社会参画「誰のため？何のため？」 中学社会 公民 P12～15 「少子高齢化－変わる人口構成と家族」 高校倫理（実教出版） P200～202 第2章 第3節 家族の課題 中学2年道徳 P192～197 シーズン4 よりよい社会を目指して 3 3. 社会参画、公共の精神「紙芝居」 高校倫理（実教出版） P178～181 第1章 第6節 社会参加と幸福

⑩ 貧困について考える	
「貧困＝経済的に苦しいこと」ではなく、「人とのつながりが希薄であること」の理解から、自分や他人を大切にすることの重要性を伝えます。	
関連可能な単元	中学社会 公民 P44～55 「社会権－豊かに生きる権利」 P150～153 「社会保障の仕組み」 「少子高齢化と財政」 高校現代社会（東書） P146～148 第4章 現代の経済と国民福祉 ④社会保障の役割 高校現代社会（第一学習社） P144～147 第5章 現代の経済社会とわたしたちの生活 ⑭社会保障と福祉社会 ⑯これからの社会保障

⑪ 自分の権利～相手の背景～	
子どもの「権利」について学び、社会から守られているという視点から安心して生活が送っていけるということを伝えます。また、相手の背景について考えることで、他者と共存するために必要な視点について学びます。	
関連可能な単元	中学社会 公民 P44～55 「基本的人権と個人の尊重」 「平等権―共生社会を目指して」 「社会権―豊かに生きる権利」

⑫ ダイバーシティ～価値観の多様性について学ぶ～	
様々な価値観が混在する現代社会の中で、お互いの価値観の差異を認め合い、尊重しあうことについて学びます。	
関連可能な単元	中学1年道徳 P42～45 シーズン2 仲間とよりよい生活をおくるために 7. 相互理解・寛容「私の話を聞いてね」 中学社会 公民 P20～21 「多文化共生を目指して」

⑬ わたしらしさ、あなたらしさ	
「自分らしさ」とともに、他の人の「その人らしさ」を認め合うことで、お互いの個性や可能性を肯定的に捉え、お互いを尊重し合うことの大切さを学びます。	
関連可能な単元	中学道徳1 きみがいちばんひかるとき シーズン2 仲間とよりよい生活をおくるために P42～45 7. 相互理解・寛容「私の話を聞いてね」

⑭ 暮らしとお金について考えよう	
日々の暮らしの中で、普段意識することのない「お金」について知ること、お金の大切さを学びます。	
関連可能な単元	小学5・6年家庭科 P36～37 「1. お金の使い方を見つめよう」 中学社会 公民 P120～127 「1節 消費生活と経済」

⑮ お給料の使い道を考えてみよう	
お給料の使い方をイメージする体験を通して、お金の大切さを学び、必要なお金の計画的な使い方・貯め方・考え方を伝えます。	
関連可能な単元	小学5・6年家庭科 P38～43 「2. 買い物名人になろう」 「3. 買い物名人として生活しよう」 中学社会 公民 P120～127 「1節 消費生活と経済」

3. 講師紹介

P36参照

4. 参考図書紹介

P37～38参照

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 「福祉ってなに？ ～バリアフリーとユニバーサルデザイン～」

2 単元（題材）の目標

福祉の基本的な考え方について、ユニバーサルデザインなどの具体例を通して理解する。

3 本時の学習

（１）準備・資料等 社協：PC、アンケート 学校：スクリーン、プロジェクター

（２）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10分	発問 1：皆さんのみんなの福祉のイメージは何色ですか？ <u>予想される反応</u> ・やさしいイメージだからピンク ・点字ブロックのイメージで黄色 ・なんとなく白 <u>伝えたいこと</u> 色々な答えがでましたね。どのイメージも間違いではありません。福祉で大切なのは『色々な人、考えがある』ということ覚えておくことです。	・どんな意見も否定せず受け止める。 ・いろいろなイメージが挙げられるよう発言を促す。	・積極的にイメージを言葉にしようとしているか。
展開 1 10分	発問2:ユニバーサルデザインって聞いたことがありますか？ <u>予想される答え</u> ・聞いたことあるけれど、どんなのかな？ ・みんなが使えるデザインのことだよね。 <u>伝えたいこと</u> ・ユニバーサルデザインは、いろいろな人、どんな人でも使いやすいデザイン ・身の回りのものがユニバーサルデザインに変わってきている。 ・バリアフリーとユニバーサルデザインについて	実際のユニバーサルデザインの物品を見せたり回しながら、身近なユニバーサルデザインについて解説する。 Powerpointの資料に沿ってユニバーサルデザインの解説をする。 ・ユニバーサルデザインの対象は「すべての人」ということを理解できるようにする。	・積極的にユニバーサルデザインを読み取ろうとしているか。 ・読み取れる情報から、ユニバーサルデザインの役割を考えているか。
展開 2 10分	発問 4:次の写真を見て、気が付くユニバーサルデザインをあげましょう。 <u>多目的トイレ</u> <u>予想される答え</u> ・小さい子が一緒に入れるようになっている ・手すりがついている	・多目的トイレはオストメイト（人工肛門）を利用している人へも対応できていることを付け加える。 ・高齢者、障がい者、	

	・赤ちゃんが座る椅子がついている。 ・車いすやベビーカーで入れるように広いスペースになっている。 ・障がいのある人のためのトイレがある。 エレベーター 予想される答え ・車いすの人のための鏡がついている。 ・中に手すりがある。 ・下の方にもボタンがついている。 ・点字ブロックがある。	子どもに使いやすいデザインは「みんなが使いやすい」デザイン	
まとめ 10 分	・心のユニバーサルデザインについて考える。 伝えたいこと 目に見える「ところ」や「もの」だけではなく、「こうしたらいろんな人に便利で安全だな」「これだと快適に使えない人がいるんじゃないかな」など、いつも自分の身の回りのことや周りにいる人たちのちょっと先を想像し、私たちひとり一人が「こころ」にユニバーサルデザインを持つことが大切。 ・そのための第一歩として、まず、人を否定しないこと。	・福祉＝『ふだんのくらしのしあわせ』 ・それぞれの『ふだんのくらしのしあわせ』が違うということを理解する。 ・お互いの考えを尊重すること ・well-being=輝いて生きること	・今日の講義を振り返って、「福祉」の基本的な考え方について理解することができたか。
5 分	アンケート記入		

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 ボランティアをよく知ろう！

2 単元（題材）の目標

ボランティアについて学ぶことで、社会貢献活動の意味や重要性を理解し、ボランティア活動を通して、地域の一員としての自覚を持つ。

3 本時の学習

（１）準備・資料等 社協：PC、ふせん、紙媒体資料、アンケート

学校：プロジェクター、スクリーン

（２）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10 分	発問1 みんなの「ボランティア」と聞いて思いつくものを手元のふせんに書いて黒板にはってみよう。 <u>予想される意見</u> ・災害ボランティア ・高齢者施設でのお手伝い ・地域のサロン ・地域の清掃活動 ・保育園などでの活動 ・子ども食堂 ・オリンピックのボランティア …など	・イメージ付けをしないように自由に書いていく。 ・ヒントとしては自分が体験したことや、テレビなどで見たことを思い出すように。 ・同じような内容のふせんをまとめていく。 ・具体的な内容の付箋を紹介する。	・積極的に自分の意見を書こうとしているか。 ・今までの自分の記憶、知識、体験を通して考えているか。
展開 1 10 分	発問2 みんなが、黒板にはってあるボランティアを「やってみよう！」と思ったとき、どうしたら参加できるかをグループで考えてみよう。 <u>予想される意見</u> ・市役所や社協に電話をして聞いてみる。 ・災害ボランティアの団体に問い合わせる。 ・インターネットで調べてみる。 ・学校の先生に聞く。 ・家の人に聞く。	・内容ごとにまとめたボランティアにタイトルをつけておく。 ・内容が偏っているのであれば補足していく。 ・各市町村には社協、市役所でボランティアを主に担当している部署があることを理解する。	・積極的に班の話し合いに参加しているか。 ・自分なりにコンタクトを取る先など、ボランティアに参加する手段を考えているか。
展開 2 10 分	発問3 みんなが「参加したい」と思ったボランティア活動を1つ選んで、実際にするとき「大事だな」と思うことをグループで考えてみよう。	・紙資料『ボランティアに参加しよう』からボランティアの心得7か条を読んで、ボラン	・積極的に班の話し合いに参加しているか。 ・ボランティアは人と接する活動であると

	<u>予想される意見</u> ・災害ボラは被災地に迷惑をかけたらいけないって聞いたよ。 ・高齢者の人のことを知る ・あいさつをしっかりとしないといけないよね。 ・ボランティア団体の人にしっかり連絡をとる。 ・遅刻や無断欠席はだめだよね。 ・風邪とか引いていたらできないね。手洗いうがいに気をつける。	ティアには相手があり、「相手の身になって考えること」、約束事が出てきたときに、責任をもって「約束事を守ること」が大切と伝える。	いうことに考えが及んでいるか。 ・ボランティアにも「責任がある」ことを理解しているか。
事例 1 5 分	事例紹介 1, 2を紹介する。	・事例 1 …地域に住む人へ関心を持ち行動することの大切さ。 ・事例 2 …地域の行事に「参加している」という、地域の一員としての行動を意識すること。	・自分と同世代のボランティア活動を、自分に引き付けて考えているか。
まとめ 5 分	<u>発問4</u> 自分が「なにができるか」を考えてみよう。(所定の用紙に書き込み)	・身近なところからボランティアを始めてみるのが大切。 ・夏休みボランティア体験がいいきっかけになる。 ・地域にどんなボランティアがあるかをまずは知ること。	・自分なりにできるボランティアについて考えているか。 ・地域の一員としてのボランティアの大切さを理解しているか。
5 分	アンケート記入		

ボランティアについて紹介事例

事例1

14日(土曜日)から15日(日曜日)にかけてたくさん雪が降りました。翌日の16日(月曜日)、地域の方から次のような電話をいただきました。

昨日(15日)、家の周辺の除雪をしていたら、中学校3年生のN君がスコップを持ってきて「除雪を手伝いましょうか？」と声をかけてくれました。聞くと、我が家に来る前に、近くの80歳代のおばあちゃんのところの除雪を終えてきたということでした。我が家は自分達夫婦でできるので、「隣の90歳代のおばあさんのところへ行ってみてあげて」とお願いしたら、快く行ってくれ、そのおばあさんも大変喜んでおられました。挨拶も気持ちがよく、家庭はもちろん、日頃の学校での指導もいいのだろうと思い、連絡をさせていただきました。先生方によろしくお伝えください。

という内容です。

雪が降ると子供は大喜びですが、高齢者にとっては除雪作業が大変です。そんな中で、自ら進んで地域の高齢者のため、人のために働けるのは本当に素晴らしいと思います。「今だけ、金だけ、自分だけ」の人が多いと言われる中であって、こういう生徒が本校にいることを誇りに思います。小さなことでも人の役に立ったり、周りが喜んでくれたりすることが普通にできる生徒をどんどん増やしていきたいと改めて思いました。

事例2

地域にあるコミュニティサロンで、玖波に住んでおられる方から「敬老会で、うれしいことがあったんですよ。」と、笑顔で次のようなお話をいただきました。

毎年、大竹市立玖波小学校区の敬老会が玖波公民館で開催され、この敬老会に玖波小学校の4年生は全員参加し、合唱を披露しています。今年は9月15日(月曜日)に行われ、4年生児童が元気よく合唱を発表し、お年寄りの方から大きな拍手をいただきました。その時の出来事だったようです。

敬老会終了後、会場の机や椅子の片付けが始まった時に、4年生の女子4人が、その方に、「何か私たちも、お手伝いができることはありませんか。机や椅子を片付けましょうか。」と尋ねてきたそうです。その時の表情や言い方がとても明るく、自然だったので、この子たちの真心を感じて、とてもうれしかったということでした。

ステージに上がり、ただ歌を披露するだけでなく、「自分たちは参加させていただいているんだ。」という『感謝の気持ち』や「役に立ちたい。」といった『奉仕の気持ち』がこの方の心に響いたのです。

地域の宝である子供たちが、人生の先輩である地域の方に添えた真心、そんな心をこれからも育んでいきたいと思えます。

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 ふくしの仕事を知ろう！

2 単元（題材）の目標

福祉関連の仕事についている人の実際の話を聞くことで、自分の将来のキャリア設計を考える。

3 本時の学習

（１）準備・資料等 社協：紙媒体資料、アンケート

（２）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 5分	発問1 みなさんが知っている「福祉」の仕事についている人を挙げてください。 ・ヘルパー（介護福祉士） ・ケアマネジャー ・看護師 ・理学療法士 …など	・思いつくものを自由にあげていけるようにする。	・積極的に発表しようとしているか。
展開1 30分	テーマ1:実際に「福祉の専門職」についている人のお話を聞こう。 ①ケアマネジャー ・仕事内容 ・大変な事 ・やりがい ②ヘルパー（介護福祉士） ・仕事内容 ・大変な事 ・やりがい ③社会福祉士 ・仕事内容 ・大変な事 ・やりがい	・①～③までそれぞれ、質問なども受け付ける。 ・③社会福祉士に関しては地域福祉係、相談支援係など所属する係によって内容が違ってくことに留意する。 ・子どもが興味を持てるような事例やエピソードを交えながら「大変なこと」「やりがい」について話をする。	・それぞれの福祉専門職の話に興味・関心を持っているか。
まとめ 5分	テーマ2:福祉の専門職は「自立」を支える仕事 「自立」という言葉のイメージは？ 予想される答え ・自分一人で生活すること ・だれの助けも必要ないこと	・福祉の自立は「本人が本人の意思で生活すること」「障がいや病気、年齢などに左右されず、社	・福祉の「自立」を理解し、福祉の専門職について理解を深めているか。

5 分	・すべて自分でできること アンケート記入	会で自分らしく生きること」 例：『こんな夜更けにバナナかよ』 首から下が動かない状態でも、「自分の意思」で一人暮らしを実行し、必要な支援を求めている鹿野さんは福祉的に見て「自立」している。 ・福祉の専門職は「自立」を実現するために、制度やサービスを紹介したり、提供する仕事。	
-----	------------------------------------	---	--

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 総合福祉会館見学（60 分）

2 単元（題材）の目標

身近な地域の福祉施設として、総合福祉会館を見学し、福祉会館の概要や利用者、仕事内容について学び、また、地域の場所や人との関わりを広げる。

3 本時の学習

（1）準備・資料等…社協準備：質問回答、アンケート 学校準備：探検バッグ、質問内容

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 5 分	・職員挨拶		
展開 1 見 学 30 分	・各部屋について説明を行いながら施設内を見学する。 ①ホール ②健康コーナー ③木曾・飛騨の湯 ④あじさいの間 ⑤ボランティアセンター ⑥スタジオ ⑦サンサンルーム（サンサンルームの職員からの説明）	・小学校低学年が聞いてもわかりやすいように、説明を工夫する。	・職員の説明を積極的に聞き、福祉会館について理解しようとしているか。
展開 2 体 験 15 分	・総合福祉会館の建物、仕事の内容について、質疑応答を行う。（質問内容と回答については事前に確認しておく） 質問例： 「何年に建てられましたか。」 ⇒平成6年4月1日オープン（忍たま乱太郎のアニメがテレビ放送し始めたころ） 「毎日何人が利用しますか」 ⇒1 日350人。年間約10万人。 「なぜつくられたのですか」 高齢者の方などが来て、楽しみながら友達作りができるような場所が欲しいという市民の方の希望があったため。	・質疑応答に関して、質問内容を事前に担当の先生に確認しておく。 ・事前確認した質問以外の質問があった場合も臨機応変に対応する。	・質問を積極的に行い、福祉会館について知ろうとしているか。
まとめ 5 分	・アンケート記入		

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 障がい理解（小学校4～6年生）

2 単元（題材）の目標

障がいによる「できないこと」に焦点を当てるのではなく、障がいのある人の長所や強みにアプローチして「できること」を大切にする視点をもち、障がいがあっても自分らしい生き方ができるということを理解する。

3 本時の学習

（1）準備・資料等…社協準備：PC、アンケート 学校準備：スクリーン、プロジェクター

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導 入 10 分	・障がいの基本的な捉え方について考える ・障がいってどんなことだと思いますか？ （生徒からの返答予想） ・「目が見えない人」 ・「車いすに乗っている人」 ・「手話とか点字を使っている人」 ・「身体のどこかが悪い人」 （まとめ） ・障がいとは「生きていく上での困り感」のこと ・困り感は、誰もが抱えるものであり、特別なものではない。 ・障がい者は、目が見えなかったり、足が使えなかったりすることで、やりたいことができなかったり、グループに参加することができないといった「困り感」を抱えることがある。	・「障がい」は誰にとっても起こりうる身近な問題であることを捉えさせる。 ・「障がい」を他人ごとではなく自分ごととして考えるよう促す。 ・障がいそのものの特性が理解できなくても、障がいのある人が抱えている「困り感」そのものに共感することはできるということを強調する。	・障がいの捉え方について理解しようとしているか。
展開1 ワーク 30 分	・ストレングスについて知る。 …人の長所や強み（個人の能力だけでなく、人間関係や環境も含む）をストレングスという。 …ストレングスは障がいのある人も、どんな人も皆持っている。 ・グループワーク（ワークシート使用） - 映像を見て、映像に出てくる視覚障がいのある人のストレングスについて考える。 - 映像① 視覚障がい者の日常 ～料理編～ …映像の中で気づいたことや考えたことについて共有する （生徒が気づくと予想される点） ・視覚に障がいがあるため、聴覚や触覚など	・障がいのある人のストレングスを活かす視点が持てるよう促す。	・ワークに積極的に参加しようとしているか ・障がいによるできないことではなく、障がいがあってもできることに注目して理解しようとしているか。 ・映像に出てくる視覚障がいのある方のストレングスについて積極的に理解しようとしているか。

	別の感覚で補って料理をしていたこと ・障がいがあっても日常生活動作が自立して行える人がいること …ストレングスを捉える。 (生徒からの回答予想) ・「料理ができる」 ・「聴覚や触覚などで補える」 映像② 濱田祐太郎の漫談 …漫談の中で、気付いたことや考えたことについて共有する。 (生徒が気づくと予想される点) ・「手話」→視覚障がいの方のコミュニケーションとは？ ・「野球を見に行く」→スポーツの楽しみ方は？ ・「ダーツ」→視覚障がいの方でも楽しめるゲームは？ ・「車の運転」→移動はどうしている？ …ストレングスを捉える。 (生徒からの回答予想) ・「話が面白い」 ・「滑舌がよくて聞きやすい」 ・「いろんな人と話をしている」 ③自分や友達、家族のストレングスについて考える。		
まとめ 5分	・ストレングスモデルの視点について理解する。 ・アンケート記入	・障がいのある方を「かわいそう」と思うのは、「できないこと」に注目しているからである。しかし、障がいはその人を作る一部分でしかない。だからこそ、その人の「できること」に注目していくことで、その人を個人として尊重することができる視点が生まれることをまとめとする。	・今回の講座を通し、障がいのある人のストレングスについて自分なりの考察が持てているか。

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 障がい理解（中学校1～3年生）

2 単元（題材）の目標

「障がい」を個人の問題としてではなく、環境との関係で捉えることの理解を目的として、障がい者の持つ「困難」が、本人を取り巻く「環境」によって生じていることを学び、障がいのある人に対して、自分たちにどのような手助けができるかを考える。

3 本時の学習

（1）準備・資料等…社協準備：PC、ワークシート、アンケート

学校準備：スクリーン、プロジェクター

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 5分	・障がいの基本的な捉え方について考える ・障がいてどんなことだと思いますか？ （生徒からの返答予想） ・「目が見えない人」 ・「車いすに乗っている人」 ・「手話とか点字を使っている人」 ・「身体のどこかが悪い人」 （まとめ） ・障がいとは「生きていく上での困り感」のこと ・困り感は、誰もが抱えるものであり、特別なものではない。 ・障がい者は、目が見えなかったり、足が使えなかったりすることで、やりたいことができなかったり、グループに参加することができないといった「困り感」を抱えることがある。	・「障がい」は誰にとっても起こりうる身近な問題であることを捉えさせる。 ・「障がい」を他人ごとではなく自分ごととして考えるよう促す。 ・障がいそのものの特性が理解できなくとも、障がいの人を抱えている「困り感」に共感することはできるということを強調する。	・障がいの捉え方について理解しようとしているか。
展開1 ワーク 30分	・障がい特性と環境の関係性について理解する。 ・グループワーク（1グループ4～6人） ①障がいのある人をイメージしたイラストを見て、その人がどんな時に困るかを考える。 ②困り感をなくすためには、環境がどのように変化すればよいかを考える。 パターン1 車いすに乗っている人 ・困り感…「段差」や「高い所のボタンを押すとき」など ・環境の変化…「スロープ」や「低い所にも同じボタンがあること」、ま	・ワークシート（別紙1）を使用する。 ・同じ障がいを持っていても、困り感はある人によって異なるため、手助けには対話が必要であることを強調する。 ・その本人が困っていることに視点を向け、手助けすることが大切であることを	・演習に積極的に参加しようとしているか ・障がいそのものではなく、環境に目を向け、困り感を解決する視点を理解しようとしているか。 ・グループでの話し合いに積極的に参加しようとしているか。

	た「助けてくれる人」など パターン2 視覚障がいのある人 ・困り感…「情報の欠如」や「道路上の障害物」、「車の注意」など ・環境の変化…「ガイドヘルパーがいること」、「点字ブロック」や「障害物の移動」など パターン3 聴覚障がいのある人 ・困り感…「言葉によるコミュニケーションが上手くとれない」、「支援を得られにくい」、「偏見・差別の対象になりやすい」 ・環境の変化…「手話の普及」、「文字による表示」、「ヘルプマーク」など	伝える。 ・視覚障がいにおいては、情報の欠如が一番の困り感になりやすいことを強調する。 ・目の見えない障がいには、聴覚障がい以外にも、内部障がいや精神障がいなどさまざまであり、それぞれにあった理解と配慮が必要であることを伝える。	
まとめ 5分	・今回の授業のまとめをする。 ・アンケート記入	・障がいのある人も、全て支援を必要としているわけではなく、自分ができることは、自分でできるようにすることが大切。コミュニケーションをとり、支援が必要なところだけ支援をする姿勢が大切であることをまとめとする。	・今回の講座を通し、障がいの捉え方、障がい者との接し方について自分なりの考察が持てているか。

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 障がいのある方との交流

2 単元（題材）の目標

障がいのある方と、簡単なレクリエーションを楽しむことで、同じ目線で物事を楽しむことができること、コミュニケーションの取り方を学ぶ。

3 本時の学習

（1）準備・資料等…社協準備：アンケート 学校準備：玉入れの玉・カゴ

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 15 分	・挨拶 ・「ひまわりの家」について ・利用者及び職員から簡単な自己紹介 ・ラジオ体操		
展開 1 体験 35 分	障がいのある方とのレクリエーションを通して、コミュニケーションを取る。 ・玉入れ 小学生と障がいのある方を混合した2チームで行う。 説明 5分 一回目 15分 二回目 15分	・状態や立場が違って、一人の人として相手を見る姿勢を学ぶ。 ・ひまわりの家職員に、各利用者のヘルプについてもらう。	・体験に積極的に参加しようとしているか ・相手を尊重する姿勢について理解しようとしているか。
まとめ 10 分	・サービス管理責任者 からコメント ・アンケート記入		・体験を通し、障がい者との接し方について自分なりの考察が持てているか。

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 障がい者スポーツ体験 ～ボッチャボール・ゴールボール～

2 単元（題材）の目標

障がいのある方でも楽しめるスポーツを通して、ノーマライゼーションの観点について学ぶ。

3 本時の学習

（１）準備・資料等…社協準備：ボッチャボールセット、ゴールボール、コーン、PC、アンケート

学校準備：スクリーン、プロジェクター

（２）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 5分	・障がい者スポーツについて知る。 …スポーツを通じて、障がい者と健常者が互いを知り、理解する場を作ること、障がい者が健常者の目線を知ることができたり、関わりを持つことができるようになる。	・障がい者スポーツを体験する意図を伝える。	・障がい者スポーツについて興味・関心を持っているか。
展開1 説明 5分	・ボッチャボールとゴールボールを体験する。 ・それぞれについてルール説明後、1チーム3人のチームに分かれ、各チームごと順番に障がい者スポーツを体験する。 ボッチャボール ルール説明 ・重度の身体障がい者から健常者まで楽しめるスポーツ ①1チーム3名で、先攻、後攻を決める。先攻チームの代表が決められたコートの中にジャックボール（白）を投げる。 ②先攻チームの1番手が赤いボールをコートの中に投げて、ジャックボールに近づける。 ③後攻チームの2番手が青いボールをコートの中に投げて、ジャックボールに近づける。 ④以下、先攻・後攻両チームがボールを投げる。全員投げたらエンド終了。エンド終了後、ジャックボールに一番近いボールを投じたチームが勝ち。 ゴールボール ルール説明 ・もともとはケガなどで視力を失った患者へのリハビリとして始められた競技。 ①1チーム3名で、先攻、後攻を決める。	・ボールは、手で投げることが出来る人は上から投げても下から投げてもよく、投げられない人は足や、ランプと呼ばれる勾配具などを使うことで、身体に少しでも動かせる部分があれば、投球が可能となっている。また、選手をサポートするアシスタントという役割の人もある。 ・どんな障がいを持った人でも、参加することができるスポーツであることを強調する。 ・ゴールボールは、視覚で味方や相手を確認できないため、声	・説明を積極的に理解しようとしているか。

	②先攻チームからボールを投げ、時間内（今回は3分）にどれだけ得点できたかを競う。	を出してコミュニケーションをとることが大事なスポーツであることを伝える。 ・ゴールボールをするときは、音が大切な情報源になるので、見学する人は私語や雑音が出ないようにすることを伝える。	
展開 2 体 験 30 分	各体験にかける時間はそれぞれ 10 分ずつ。 全てのチームが、「ゴールボールの体験」、「ボッチャボールの体験」、「見学」を 10 分ずつ行う。	・時間管理をこまめに行う。	・体験に積極的に参加しようとしているか。 ・体験の意図を理解し、障がい者スポーツの楽しさを理解しようとしているか。 ・グループでのコミュニケーションを取りながら積極的に参加しようとしているか。
まとめ 5 分	・アンケート記入	・アイススレッジホッケー日本代表 上原大祐氏の言葉を引用して、健常者と障がい者が互いを知ることで共生の第一歩になること、障がいにとらわれず皆が同じ目線でものを見てわかり合える、そこから理解が生まれていく力がスポーツにあることをまとめる。	・体験を通し、障がい者スポーツについて、自分なりの考察が持てているか。

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 高齢者とのコミュニケーション・高齢者理解

2 単元（題材）の目標

高齢者への「言葉かけ」を通して、年齢を重ねても人として尊重されることの大切さを学ぶ。

基本的な考え方は「パーソン センタード ケア」（人を中心とした介護）から、「相手を尊重する姿勢」を学ぶ。

3 本時の学習

（1）準備・資料等…社協準備：アンケート、A4 用紙 学校準備：なし

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 5 分	・日本で「高齢者」は何歳から？…65歳（前期高齢者）、75歳（後期高齢者） ・「老化」による変化… - 身体の変化…関節が動きにくくなる、目が見えにくくなる、耳が遠くなる、病気にかかりやすくなるなど - 精神の変化…認知症 - 社会の変化…死別、別居、定年退職など ・パーソンセンタードケア「人を中心とした介護」 ・相手のことを理解し、その人の気持ちに寄り添って行う介護のこと	・高齢者の基本的な現状を伝える	・高齢者の基本的な現状について興味・関心を持っているか。
展開 1 体験 10 分	・相手には「思い」があることを知る ①2人1組になる ②高齢者役の生徒が弁当の絵を描く ③介助者役の生徒は弁当の絵をもらって、食事の介助を試みる。	・「どれから召し上がりますか？」 ・「何が好きですか」…声掛けをしたかどうかを振り返る。 →相手の「思い」を知ること＝相手を尊重する事、好意的関心を持つ - ミラーリング：相手と行動をあわせる…目線、表情	・体験に積極的に参加しようとしているか ・相手を尊重する姿勢について理解しようとしているか。
展開 2 体験 20 分	- 高齢者とのコミュニケーション、「優しい」声かけを考える。 ① 以下の設定に従った寸劇を見る。 ・自動販売機の前で、飲み物を買おうとしているおばあさんと、その後ろに立つ中学生 ・おばあさんは、財布からお金を取り出したり、	・「ユマニチュード…人間らしさを取り戻す」に基づいたケアを知る。 ・笑顔で目を見ながらコミュニケーションをとる。 ・用件だけを伝えるので	・体験に積極的に参加しようとしているか。 ・体験の意図を理解し、高齢者への接し方を理解しようとしているか。

まとめ 5分	自動販売機にお金を入れたり、目当ての飲み物を買うことが上手くできず、時間がかかっている ・しびれを切らした中学生が別の自動販売機に向かおうとする ・おばあさんが小銭を落としたため、声をかけるが、返事がない。中学生は見て見ぬふりをして行ってしまう ② 寸劇中のコミュニケーションで、どこに問題があったか、周りの人と話し合う ③ 発表された意見をもとにした寸劇を、生徒を交えて行う。 ・アンケート記入	はなく、簡潔にわかりやすく話す。 ・「声のトーン」、「しゃべる速さ」、「声掛けの内容」について声掛けのポイントを具体的に考えるように示す。 相手が障がい者であれ、高齢者であれ「コミュニケーション」を取るということが大切。 向き合った方はたまたま障がいを持った人かもしれないし、たまたま認知症を発症している人かもしれないが、障がいも認知症もその「人」をつくる一部分でしかない。まずは、相手を知ることが理解につながるということをまとめとする。	・グループでの話し合いに積極的に参加しようとしているか。 ・体験を通し、高齢者との接し方について自分なりの考察が持てているか。
-------------------	---	--	--

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時:令和 年 月 日()第 限

実施者:

場 所:

1 単元(題材)名 生活支援コーディネーターってなあに? ～地域のためにできること～

2 単元(題材)の目標

生活支援とは何かを理解し、地域の中で学生の自分たちができることは何かを考える。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等 社協準備:ふせん、模造紙、PC、アンケート

学校準備:プロジェクター、スクリーン

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価(観点、方法等)
15分	「生活支援とはなにか」を知る <u>発問:生活の中で「必要なもの」や「大切なこと」ってなんだろう?</u> 予想される答え ・健康 ・衣食住 ・勉強 ・友達 ・家族 ・スマホ ・テレビ…等 (講師より説明) ・生活＝暮らしは様々な要素が関わり合って成立している ・生活を成り立たせる要素が、何らかの原因で無くなってしまうと生活の色々な場面で不自由が出てくる ・出来なくなったことをサポートする＝生活支援	専門用語を使用せず、生徒が想像しやすい説明を行う	積極的に講師の話を聞こうとしているか 積極的に意見を発表しようとしているか
2分	生活支援コーディネーターについて説明		
2分	「2人の困りごとを通して生活支援を考える」 Aさん…ひとり暮らし 男性 70代 昨年奥さんを亡くした。子どもと孫は県外に住んでいる。散歩が好きで、朝と夕方家の周りを歩いている 誰ともしゃべらない日があり、さみしさを感じるが多い。このままでは認知症になってしまうかと不安	難しく考えなくていいことを伝える 今の自分にできることを考えるようアドバイス 地域には気が付かないだけで、認知症をはじめとした病気で苦労していたり、人とのつながりがなくて悩んでいる人など、色々な事情を抱えた人がいるということを理解できるよ	与えられた情報を考察し、自分の意見をまとめようとしているか 積極的に自分の意見を発表しようとしているか ※発問後、時間を取る
5分	<u>発問:</u> <u>Aさんに対してどんなサポートが考えられますか?(グループワーク)</u> 予想される答え ・会ったらあいさつをしてみよう		

3分	・登下校の途中で話しかけてみる ・一人暮らしのお宅へ訪問してみたら？ 事例提示： 東京都江戸川区…ジュニア訪問員活動。中学生がグループで高齢者宅を訪問 美濃加茂市…小学校で認知症行方不明者探索訓練に参加	うに言葉がけをする。 高齢者にとって生活に変化があることは認知症予防にも大切であることを伝える	
2分	Bさん…ひとり暮らし 女性 80代 身の回りのことはなんとかできるけど、足腰に痛みがあって、重いものを持って歩くのは大変。 ゴミ出しができなくなってきた…	全国各地で中学生や高校生、小学生ができる範囲で地域の高齢者の生活を支えている事例を紹介する	与えられた情報を考察し、自分の意見をまとめようとしているか
5分	発問： <u>Bさんに対してどんなサポートが考えられますか？(グループワーク)</u> 予想される答え： ・かわりにゴミ出しをしてあげるよ ・大人に A さんが困っていることを伝えればなんとかしてくれるんじゃないかな。		積極的に自分の意見を発表しようとしているか ※発問後、時間を取る
3分	事例提示： ・熊本県水俣市…分別が細かく、高齢者には難しい。ゴミの集積所で中学生と一緒にゴミの分別を手伝う。 ・北海道札幌市、新潟県新潟市…高校生、中学生、小学生が高齢者の家のゴミを登校途中に集積所までもっていつている。		
10分	「学生だからできる地域貢献活動について考える」 <u>発問：みなさんがだったら地域で、どんな活動ができそうですか？ どんな活動をしてみたいですか？(グループワーク)</u> 予想される答え ・地域のゴミ拾いなど清掃活動 ・施設への訪問 ・あいさつ、声掛け ・ゴミ捨て ・ペットボトルのキャップを集めるなど ・夏ボラに参加する ・わからないから、とりあえず調べてみる	まずは気軽にできるあいさつから始めるといい。地域活動やボランティア活動において「これならできそう」と感じることから取り組むことが長続きする	自分にできそうな活動について考えているか。
3分	まとめ まずは地域の人へあいさつや声掛けをすること、積極的に地域行事へ参加することが大切	学生の自分の「強み」から考える ・長期休みがある ・元気がある ・学校のみんなで協力し合える ・先生の協力が得られる …など	積極的に自分の意見を発表しようとしているか

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 「貧困」について考える

2 単元（題材）の目標

「貧困＝経済的に苦しいこと」ではなく「人とのつながりが希薄」であること、「困ったときに手を差し伸べてもらえる存在がいない（少ない）」ことの意味から、自分や他人を大切にすることの重要性を伝える

3 本時の学習

（１）準備・資料等…社協準備：PC、アンケート 学校準備：スクリーン、プロジェクター

（２）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導 入 10 分	発問「貧困についてどんなイメージがありますか」 ・貧困を感じる瞬間のイメージについて意見交換を行う <u>回答予測</u> ・お金がないこと ・必要なものが足りていないこと ・お金がなくて困っていること	・貧困のイメージについて、「お金がない」だけではなく、「つながりの希薄化」＝「社会的孤立（孤独感）」が意欲や自信を喪失する原因になるという視点を持つよう促す。	・貧困のイメージについて、積極的に意見交換を行っているか。
展開 1 講 義 10 分	・貧困の実態について解説する ・「絶対的貧困」と「相対的貧困」について ・「見えにくい貧困」について ・「生活保護法」、「生活困窮者自立支援法」について	・貧困について、資料を用いながらわかりやすく説明する。	・説明を聞き、貧困の実態について理解しようとしているか。
展開 2 演 習 20 分	・他人や社会と「つながり」を持つ事について学ぶ ・「つながり」は貧困を解消するために非常に重要である。 <u>ワーク</u> 「じゃんけん電車」 ・ゲームを通じて、「繋がり」を持つことや「受容」されることを体感的に学ぶ ＊仲間が増えることの心強さ（安心）を実感する ・個人のつながりを再確認 ・「つながり」を維持する、もしくは拡大するために心がけることについて意見交換を行う	・ワークの前後に、ワークを通じて何を学ぶかを明確にして、ワークに取り組みせる。 ・「貧困＝お金がない」ではなく「孤独・孤立・ひとりぼっち」であることの意味	・ワークに積極的に参加しようとしているか。
まとめ 5 分	・明日から「心がけること」、「大事にしたいこと」をグループで共有し、発表する。 ・アンケート記入		

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 「自分の権利～相手の背景～」

2 単元（題材）の目標

子どもの「権利」から、自分はこんなことをしてもいい、言ってもいいということを知り、社会から守られているという視点から安心して生活が送っていけるということを理解する。また他者にも同様にその権利がある事を知る事が、共存していくために必要なことであると理解する。

3 本時の学習

（１）準備・資料等…社協準備：資料、アンケート

学校準備：なし

（２）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10 分	・子どもの権利について ・発問「子どもの権利って、どんなものだと思いますか？」 ・権利とは、「してもいいこと」。権利は生まれたときから皆にある。 ・子どもの権利に関する資料を読み、思い浮かんだ考えをワークシートに記入させる。	・思いついた考えを自由に記述させる。	・積極的に自分の考えをワークシートに記入しているか。
展開 1 演習 10 分	・相手の背景について - ワーク「桃太郎と鬼」 ①ワークシートに従い、桃太郎と鬼どちらが正しいと思うかを発問し、意見を聞く。 ②ワークシートのイラストのセリフを考え、記入してもらう。 - 予想される意見 ・鬼は酷いやつで、村人が困っている。 ・悪い事をしたから、退治しないとイケない。 ③以下の仮定の情報を提示する。 ・実は鬼はまだ子どもで、母子家庭。 ・家が火事に遭い、テレビも布団もない。 ・母が病気で仕事ができずに、貧乏で借金あり。 ・下の兄弟はまだ保育園児で、食べる物も無い。 ・鬼は下の兄弟の面倒をみており学校に行けない。 ・母に宝奪うよう怒鳴られた。怖い顔して行くように言われた。 ④仮定を踏まえて、グループで意見をまとめてワークシートを記入する。 - まとめ ・①と②の時と④での意見の違いがあるか、変わっ	・①と②についてはクラス全体に対して、挙手制にて回答をお願いする。 ・④はグループの代表者に答えてもらう。	・積極的にワークに参加しようとしているか。 ・自分の意見を発表し、全体に共有できているか。

展開 2 演習 15 分	た事があるか答えてもらう。 ・意見を言う事の大切さを理解してもらう。 ・意見表明権について ワーク「悪い子と決めつけている」 ①事例を読んで、どう思ったかをワークシートに記入する。 ②グループで話し合い、まとめた意見を発表して全体で共有する。 予想される意見 ・ぼくの意見を聞いてくれない ・先生が話を聞いてくれないなら親や他の先生にも相談してみる ・デブなのにご飯ゆっくり食べておかしい ・言われても、先に手を出したらいけない まとめ ・自分の意見をはっきり言える権利がある ・意見を伝えることで、周りに自分の困っている事や気持ちを伝えることができる ・周りの他の先生や親、友達、気軽に相談できる場所に相談してみる	・今まで発言していない人、発言しなさそうな子から積極的に意見を聞く。 ・正解は無いこと、自分の意見で思ったことを共有することが大切であることを伝える。	・自分の意見をしっかりとグループで共有できているか。 ・自分の意見を伝えること、相談することの大切さが理解できているか。
まとめ 10 分	・意見を言う事で、自分も周りの人も考えや言動が変化していく ・話し合って解決していく事で、表面上だけでなく、相手の事を深く理解していく事ができ、対人関係が良好になっていく事を知ってもらう ・子どもの権利条約について資料を読む ・困った時の相談先について紹介する ・アンケート記入		

〇〇中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 ダイバーシティ 価値観の多様性について学ぶ

2 単元（題材）の目標

様々な価値観が混在する現代社会において、お互いの価値観の差異を認め合うことで地域の人々が住みやすく共に生きる社会を作ることには地域福祉を考える上で重要なことである。

近年、日本の一般企業において「ダイバーシティマネジメント」という言葉が注目されている。ダイバーシティとは「多様性」のことであり、企業経営の中で多様な人材、多様な価値観をもったスタッフが個性を生かして生産性を高めていくダイバーシティマネジメントという考え方が徐々に広まってきている。働き方をめぐる様々な問題、固定観念にとらわれない仕事のしかたが増えているなど、これからの社会がますます複雑にかつ多様な価値観が存在していく中で、子どもたちが個々の力を発揮し、お互いの価値観を認め合い尊重しあうことが求められていると考えられる。

本授業では、国籍、年齢、性別、障がいの有無など、多様な人々が生きる社会でこれからを過ごしていく子どもたちに対して、多様性についての理解を共有し、地域の中で様々な価値観を持った人たちとともに生きる社会を作することを目的にしている。

3 本時の学習

（1）準備・資料等

社協準備：PC、アンケート 学校準備：プロジェクター、スクリーン

映像資料「バラバラルルル／井上涼」YouTube より

<https://www.youtube.com/watch?v=Tnjxpa8I6ZY>

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10分	◆講師自己紹介 「美濃加茂市社会福祉協議会から来ました。●●です。」簡単に挨拶と自己紹介 ◆「ダイバーシティ」の言葉を板書 皆さんはこの言葉を知っていますか？ 「多様性」という意味（板書） 「多様性」ってなんだろう？ 年齢や性別はみんな同じようなものだけど、入っている部活、好きなもの、好きなこと、ものごとの考え方、みんなにもいろんな個性がある。 多様性とはいろいろな種類のものがあることを指している。 多様性を認め合うってどういうことだろう？ ◆映像「バラバラルルル」鑑賞（5分） （板書） 県立ナラナラ高校コーラス部のメンバー	知っている人举手してもらう	・多様性という言葉について理解しようとしているか。

展開① 20 分	・主人公 ・初心者 後藤 (帰りたい・ソロパート歌いたい) ・忍者の末裔 しのぶ (忍者の掟があるので小声でしか歌えない) ・イタコのいっちゃん (遣隋使と遣唐使を憑依させるために精神統一必要・後藤のソロパート反対) ・鹿 (角かいゆい) それぞれがそれぞれの考え方を主張している →お互いの価値観、多様性を認め合い、コンクールの日を迎えることができた 最後のセリフ板書 「ぼくたちはバラバラでした きっとこれからもバラバラでしょう でも！！・・・」 ・・・この後にどんなセリフが続くと思いますか？ ◆わかりあえない、けどわかりあおうとすることが大切であること伝える。	個性的過ぎるコーラス部のメンバーそれぞれの価値観や思いについて説明興味引くように面白い感じで 映像作者 井上涼さん →セクシャルマイノリティ公言している。	・映像から多様性について積極的に学ぼうとしているか。
展開② 10 分	◆実際に社会的に少数派だったり、ハンデを抱えている人たちが社会の中で活躍している事例 ひきこもり当事者やニート・フリーターだった人たちが活躍している会社がある 「ひきこもり・ニート・フリーター」ってどういうイメージ？ 「株式会社デジタルハーツ」事例あげる バグを見つけるの得意。 ◆私たちが仕事をしている社会福祉協議会というところは、地域共生社会(板書)を作ること为目标にしています。美濃加茂市に住んでいる皆さんが多様性をお互いに認め合い、助け合ってより良い、住みやすいまちづくりを目指している。 ◆生活困窮者自立支援事業の中の就労準備支援事業の事例→障がいをもった人たちやひきこもり当事者への支援を行っている	隣の人と話し合ってもらい意見を発表する 「これからもみんなで歌いたい」「コンクールの優勝めざしたい」など	・自分なりの意見をもてているか。
結論 5 分	◆どんな人にも個性があり、多様な価値観があり、お互いに認め合うことで、より良い社会を作っていくことができる。 ◆どんなことを感じたか、感想を書いてみよう。		・多様性について理解することができたか。

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 「わたらしさ、あなたらしさ」

2 単元（題材）の目標

「自分らしさ」とともに他の人の「その人らしさ」を認め合うことで、多様な人がともに暮らしていることに気づくことができる。そして、お互いの個性や可能性を肯定的に捉え、お互いを尊重し合うことの大切さに気づき、思いやりの心を育てる。

3 本時の学習

（１）準備・資料等…社協準備：ワークシート、マークに関する資料、アンケート

学校準備：なし

（２）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10 分	○自分と他の人との違いについて知る ＜発問＞ 「あなたは●●が好きですか？」「あなたはどのようなことをしていることが好きですか？」など 例：「本を読むこと」、「外で遊ぶこと」、「パソコンやゲーム」、「車やバイク、電車など乗り物」、「スポーツ」、「料理」、「一人で遊ぶこと」など ○自分と他の人との「違い」を理解し、多様性を認め合える 【説明の例】 好きなものや好きなことは、人によってそれぞれ違います。それは大切な「自分らしさ」です。その自分らしさを大切に思い、自分をかけがえのない存在と大切にしてください。そして、同じように、他の人が自分のことを大切に思ってくれることも大切にしてください。皆が自分のことを大切に思えるように、お互いの大切さを認め合いましょう。	自分らしさを感じ、それを肯定的に捉え、自分を大切に感じる気持ちが抱けるよう声をかける。 他の人の回答に対して、共感的に受け止めるように声をかける。	好きなものや好きなことは一人ひとり異なることを理解して、自他の個性を肯定的に捉え、それを認め合う（尊重し合う）ことの大切さに気づく。 自分のことを「自分はどうなことが好きなのか」と考える事で、どんなことをしたいと思っているのか、どんなことを大切に思っているのかなど、「自分らしさ」を感じることができる。
展開 1 演習 20 分	○具体的に自分の「自分らしさ」を考え伝える ワーク「自分らしさって何だろう？」 ①自分の好きなことや好きなものについて、ワークシートの1～6の枠に書く。（個人ワーク） ②グループで一人ずつ3つの項目について発表する。他の人や好きな理由や詳しく聞きたいことなどを順番に全員で質問し合う。（グループワーク） ③自分らしさの大切さについての説明を聞く。 ④いいなと思う「自分」についてワークシートに各自記入する。 ⑤⑥について、全体に発表し共有する。	質問することが難しい場合は、「わたしも～が好きです」のように同意や感想でもよいことを伝える。 質問数・時間を決めるなどして、全員が発表し、質問を受けられるようにする。	「自分らしさ」について、自分の意見を伝えたり、相手の意見を理解することで、自分自身の良さを自覚し「自分らしさ」を肯定的に捉える。同時に周りに自分の「自分らしさ」を認めてもらうことで、自分自身の良さに気づくことができる。

			お互いの「自分らしさ」の違いを肯定し、お互いの個性（良さ）を尊重し合うことの大切さに気づく。
展開 2 演習 10 分	○他の人への配慮について考えることから、多様な人が共に暮らしていることについて考える(想像する) ワーク:「このマーク知っていますか？」 ・高齢運転者標識、マタニティマーク、ヘルプマークなどを見せ、そのマークが何を意味しているか、どんな場所で見かけるか等を発問する。 ・マークを見かけたときに、周りの人ができることは何か、また自分がそのマークの立場だったらどのようなことに配慮して欲しいか、どのような言葉をかけてもらいたいかなどについて考える。	マークの表す意味が分からない児童には、デザインから思い浮かぶことを発言するよう促す。 実生活につなげて考えられるように促す。 想像と共感的理解を促す。	身近にあるマークから、自分達の身近にも配慮が必要な人がいることと、お互いの相手の状況や気持ちを理解し、配慮や協力などをすることが大切であることに気づく。 これらのマークを見かけた時に、自分がすることは何かを考え、行動しようとする意欲を育てる。 多様な人達と共に暮らしていることに気づく。
まとめ 5 分	・アンケート記入		自分のことを大切に思うこと（自己肯定感）が、他の人のことを大切にする気持ちにつながり、お互いが価値ある存在として認め合うという意識が大切ということ、児童の心の中に育てていける。

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 「暮らしとお金について考えよう」

2 単元（題材）の目標

日々の暮らしの中で、普段意識する事のない「お金」について知ること、お金の大切さについて考える。また、早いうちからお金の使い方・貯め方・考え方を身につけることで、友人間や大人になってからの金銭トラブル回避につなげる。

3 本時の学習

（1）準備・資料等…社協準備：PC、アンケート

学校準備：プロジェクター、スクリーン、ネットワーク環境

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 15 分	・暮らしにかかわる「お金」について考えてみよう 発問① 「皆さんは、普段どんなことにお金を使いますか？」 ワーク 横や前後の席の子と話し合い(3 分)、発表(5 分) 予想される回答 ・好きなものを買うとき ・食べ物や飲み物を買うとき ・電車に乗るとき 伝えたいこと ・お金を支払うことで、好きなものを手に入れたり、楽しいことができたり、暮らしを良くすることができる。	・できるだけ生徒の自由な発想で答えさせる。 ・色々な物を購入した今までの経験から、生活するためにはお金が必要であることを確認させる。	・発問に対して、積極的に自分の考えを発信できているか。
展開 1 演習 10 分	発問② 「お金はどこから来るでしょう？」 ワーク 横や前後の席の子と話し合い(3 分)、発表(5 分) 予想される回答 ・お小遣いでもらう ・お年玉でもらう ・仕事でもらう 伝えたいこと お金(収入)は働いて手に入れるもの。どんな職業にも、苦勞ややりがいがある。	・自分の家族では、どのようにお金を得ているのか考えさせる。 ・日常生活を思い出して答えさせる。	・積極的にワークに取り組もうとしているか。

展開 2 演習 10 分	発問③ 「生活費には、どんなものがあるでしょうか？」 予想される回答 ・電気代 ・ガス代 ・携帯代 ワーク 横や前後の席の子と話し合い(3 分)、発表(5 分) 伝えたいこと 普段意識していないところにもお金がかかっている ので、計画的にお金を使うことが大切。	・日常生活を思い出 して答えさせる	・積極的にワークに取り 組もうとしている か。
まとめ 10 分	・収入は働くことで手に入れるもの。 ・生活には普段意識していないところにもお金 が必要である。 ・アンケート記入		

〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 「お給料の使い道を考えてみよう」

2 単元（題材）の目標

お給料の使い方をイメージする体験を通して、お金の大切さに気づき、その使い方に関心を持つ。
また、必要なお金の計画的な使い方・貯め方・考え方を身につけることで、友人間や大人になっ
てからの金銭トラブル回避につなげる。

3 本時の学習

（1）準備・資料等…社協準備：PC、登場人物のお面、収支表、アンケート

学校準備：プロジェクター、スクリーン、ネットワーク環境

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10 分	発問①「こんなとき、どうする？」 ①－1:もうすぐ家族の誕生日。どうお祝いする？ 予想される回答 ・ケーキを買う ・プレゼントを買う ・外食する ①－2:掃除機が壊れた！どうする？ 予想される回答 ・新しいものを買う ・修理する ・ほうきを使う 伝えたいこと 同じ出来事でも、考え方はいろいろ。でも、お金はよく考えて使わないといけない。	・できるだけ生徒の自由な発想で答えさせる。 ・個人で考え、数名に答えさせる。	・積極的に発問に対して自分の考えを発信できているか。
展開 演習 30 分	計画家の1か月の生活をみてみましょう。 ※Web 版消費者教育読本「知っているようで知らない「くらしとお金のヒミツその3お話「お金の使い方を考えよう」」を使用する。 ・毎月必要なお金（電気代、小遣い、貯金等）を先取り(183,000 円) ・食費の買い物(60,000 円) ・日用品の買い物(5,000 円) ・掃除機が壊れた(20,000 円) →残金の確認	・毎月必要なお金（固定費）を認識させ、詳しく説明する。 ・収支表を使い、確認しながら説明する。 ・家族の状況や商品の情報をよく見て、本当に必要かどうかよく考え、計画を立てて金銭を使う	・積極的にワークに取り組もうとしているか。 ・必要なお金の使い方を理解しているか。

まとめ 5分	発問②「一週間後が家族の誕生日だった！どうやってお祝いする？」 ワーク 横や前後の席の子と話し合い(3分)、発表(5分) 予想される回答 ・ショートケーキを買う ・ケーキを手作りする 伝えたいこと ・先の予定を考えてお金を使うことが大切。 ・残りのお金を確認しながらお金を使うことも大切。 ・お金には限りがあり、工夫して大切に使う必要がある。 ・アンケート記入	必要があることを理解させる。	
-------------------	---	-----------------------	--

福祉教育 出前講座調整可能な講師等一覧

講座内容	個人・サークル名	連絡先	日程調整について	その他
手 話	手話サークル やまびこ	社協 (28-6111)	実施日の1ヶ月前までに連絡・調整	聴覚障がい者の調整 も可能
手 話	手輪の会	社協 (28-6111) もしくは、 市役所福祉課	実施日の1ヶ月前までに連絡・調整	聴覚障がい者の調整 も可能
点 字	岩井 公志	社協 (28-6111)	実施日の1ヶ月前までに連絡・調整	点字器貸出可
視覚障がいについて	小嶋 みつえ	社協 (28-6111)	実施日の1ヶ月前～2週間前までに連絡・調整	視覚障がい者
認知症について	市役所高齢福祉課	市役所高齢福祉課 (25-2111)	実施日の1ヶ月前までに連絡・調整	認知症サポーター養成講座の実施

※上記以外の講師、講座内容についてもご相談を承ります。お気軽にお問合せ下さい。

※市民の方が講師となる場合は、お仕事の調整等が必要となります。なるべく早めに日程調整ができるようご配慮下さい。

※講師料・交通費に関しては、各講師とご相談ください。

問合せ先：美濃加茂市社会福祉協議会 地域福祉係 福祉教育担当 TEL：28－6111 FAX：28－6110

※その他 副読本・参考図書

障がいへの理解

「せなかをとんとん」 作：もがみ いっぺい 絵：はせがわ ともち

光村図書 こくご 二上 「この本、読もう」 P120~121

しんぺいのおとうさんは、耳が聞こえません。しんぺいは、「おとうさん。」とよびたいのですが――。

「さっちゃんのまほうのて」 作：たばた せいいち

光村図書 こくご 二下 「この本、読もう」 P128~129

さっちゃんの手は、おとうさんやおかあさんと少しちがっています。でも、おとうさんは、「まほうの手だね。」と言います。

「どんなかんじかなあ」 作：中山千夏

光村図書 こくご 三下 「この本、読もう」 P126~127

友だちのまりちゃんは目が見えません。目が見えないってどんな感じかなあ。

「見えなくてもだいじょうぶ？」 作：フランツ＝ヨーゼフ＝ファイニク

光村図書 こくご 四上 「この本、読もう」 P124~125

まいごになったカーラ。けれども、だれも助けてくれません。声をかけてくれたのは、目が不自由なお兄さんでした。

「さわるめいろ」 作：村山純子

光村図書 こくご 四下 「この本、読もう」 P124~125

目の見えない人と見える人が、いっしょに楽しめるように作られた絵本です。線をたどって、めいろを楽しみましょう。

「新ちゃんがないた！」 作：佐藤 州男 絵：長谷川 集平

光村図書 国語 五 「この本、読もう」 P236~239

四肢性まひでうまく歩けず、泣き虫だった新ちゃんは、変わった。どんな意地悪をされても、決して泣かなくなった。

「五感の力でバリアをこえる」 作：成松一郎

光村図書 国語 六 「この本、読もう」 P242~245

だれもが必要な情報を得て、こちよく生活できる。そんな社会をつくるためのヒントが入っている。

「リバウンド」 作：E・ウォルターズ

光村図書 国語（中学）2 「読書案内」 P188~189

人間関係に悩むショーンと車椅子生活のデーヴィッド。

二人の少年の出会いがお互いを変えた。日常に潜む偏見や不便さなど障がい者の抱える問題を照らしながら、真の友情とは何かを問いかける。

「そっと耳を澄ませば」 作：三宮 麻由子

光村図書 国語（中学）2 「読書案内」 P188~189

四歳で失明した筆者。だが、そっと耳を澄ませば、さまざまな感触や音に満ちた世界を全身で感じ取ることができる。ユーモアあふれるエッセイ集。

高齢者理解

「いのちのおはなし」 作：日野原 重明 絵：村上 康成

光村図書 国語 四下 「この本、読もう」 P130~131

生きているとはどういうことでしょう。

九十五さいの日野原先生による、命のじゅぎょうです。

「ヨーンじいちゃん」 作：ペーター＝ヘルトリング

光村図書 国語 六 「この本、読もう」 P242~245

ヨーンじいちゃんは、おしゃれもするし、恋もする。ちょっと変わっているけれど、にくめない。

参考図書

「大好きだよキヨちゃん」 作・絵：藤川幸之助 クリエイツかもがわ かもがわ出版

キヨばあちゃんは脳みそが少しずつ小さくなって、いつかは赤ちゃんになってしまうー。自分にとって大切な人の記憶がうすれて行くとき、一体何ができるのかを問いかけます。

「いのちのまつり～ヌチグスージ～」 作：草場一壽 絵：平安座資尚 サンマーク出版

「ぼうやに命をくれた人は誰ね？」という沖縄のおばあへの問いかけから始まるお話。「命」の大切さ、家族の存在を今一度考えます。

「わたし いややねん」 作：吉村敬子 絵：松下香住 偕成社

手足に障がいを持ち、外出の際には車いすを使用する作者がつづった「人間としての訴え」。人物は一切登場せず車いすの絵のみで心の声を表現しています。

「そこに僕はいた」 作：辻仁成 新潮文庫

表題作「そこに僕はいた」では義足の「あーちゃん」と「僕」の交流を通して、障がいを持つ人・持たない人の本当の意味での自然なあり方を考えるきっかけを与えてくれます。

福祉出前講座の利用について

1. 申込方法

開催希望日の **1ヶ月前**までに、美濃加茂市社会福祉協議会（☎28-6111）まで、

- ・希望の講座内容
- ・希望日時
- ・参加人数、参加する学年とクラス数をお知らせください。

なお、他の業務の都合などにより、希望の日時にお伺いできない場合もございますので、あらかじめご了承ください。また、福祉出前講座依頼書（美濃加茂市社会福祉協議会ホームページからもダウンロード可能）に講座のおおまかな希望内容をご記入いただき、打ち合わせの際にお持ちください。

2. 申込後の流れ

①打ち合わせ

子どもたちに何を学んで欲しいか、どんなことを考えて欲しいかなど、講座のテーマになる部分を学校側と社協側で共有します。

②プランニング

打ち合わせによって共有されたテーマを軸に、社協職員が授業プランを作成します。授業プランは学校側と共有し、修正していきます。

③講座実施

プランニングにより完成した授業プランを元に、出前講座に伺います。

④ふりかえり

授業アンケートによるフィードバックを行い、その結果を報告します。また、その後の学びや福祉活動に繋がるよう、フォローアップを行います。

担当

美濃加茂市社会福祉協議会

地域福祉係 麻生・嵯峨

電話 0574-28-6111

FAX 0574-28-6110

福祉出前講座依頼書

依頼者名	(団体名)		(連絡・担当者)	
住 所	美濃加茂市			
TEL			FAX	
開催希望日	第1希望日	第2希望日		第3希望日
開催時間	時 分～ 時 分 (※集合時間 時 分) (※集合場所)	対象者	(名)	
学習内容	希望される出前講座のメニュー(福祉のポケットP3～8を参照して、番号と講座タイトルを書き込んでください。)			
	番号	講座タイトル		
	《詳細》希望する学習内容、学習形態、予定している当日の流れ等をご記入ください。 ※資料等ありましたら、ご提出ください。			
学習の目的	※意図する学習のねらい、目的などをご記入ください。			
使用物品	※社会福祉協議会への借用希望物品をチェックしてください。 ☐ 車いす()台 ☐ アイマスク()個 ☐ 白杖()本 ☐ 点字器()台 ☐ 高齢者疑似体験セット大人用()セット ☐ 高齢者疑似体験セット児童用()セット ☐ その他()			

※開催希望日の1カ月前までにご依頼ください。
 ※ご不明な点は社会福祉協議会までお問合せ下さい。
 ※依頼を確認後、詳細についての打ち合わせをおこないます。

連絡先 美濃加茂市社会福祉協議会 地域福祉係

TEL (0574)28-6111 FAX (0574)28-6110

美濃加茂市社会福祉協議会

地域福祉係

美濃加茂市新池町 3 - 4 - 1

TEL 0 5 7 4 - 2 8 - 6 1 1 1

FAX 0 5 7 4 - 2 8 - 6 1 1 0